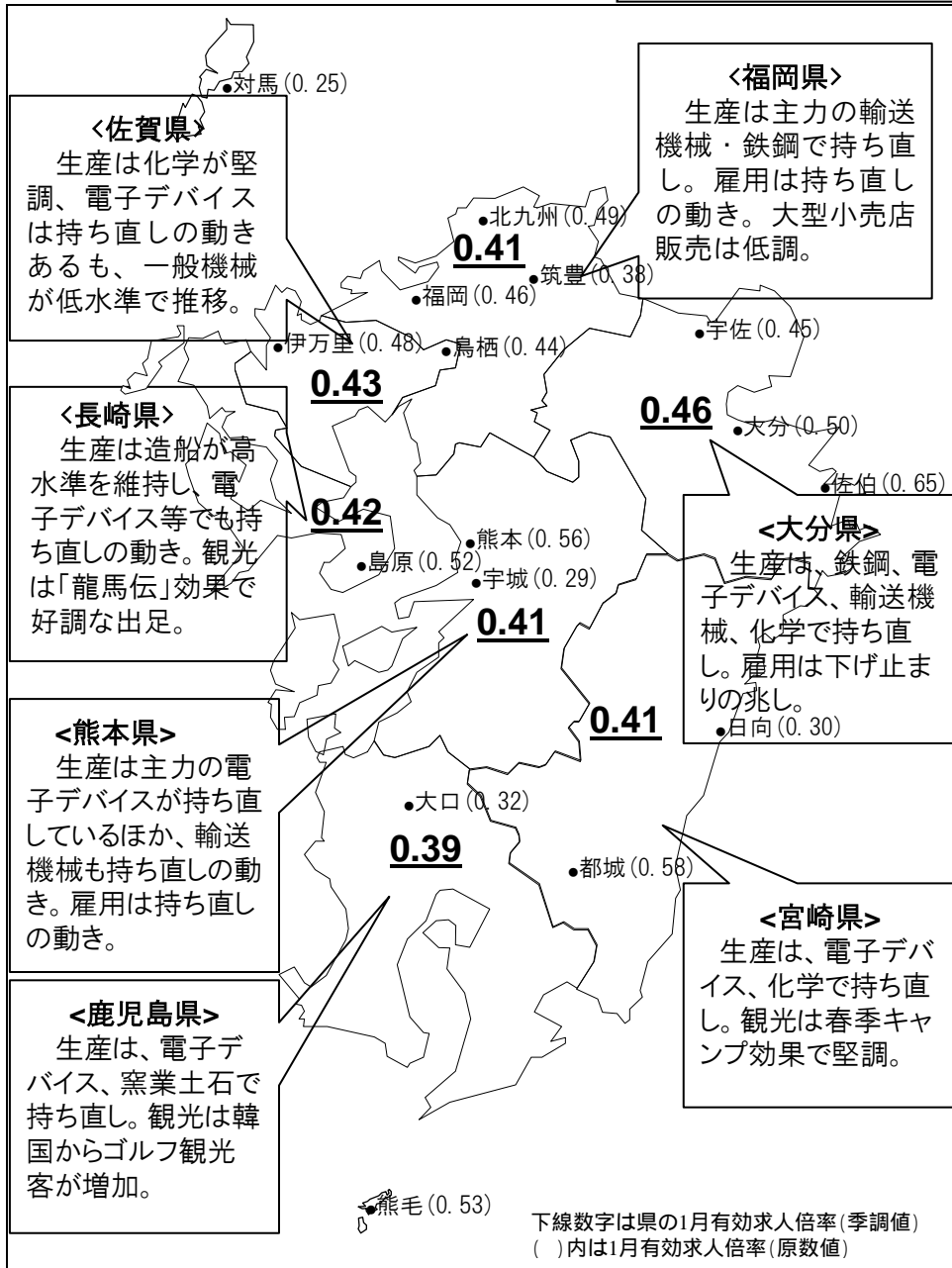


九州経済産業局管内の経済動向



九州地域の経済は、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。

1. 全体の動向

アジア需要や経済対策効果を反映して、生産は持ち直しで推移。業況も緩やかながら改善傾向。設備投資は下げ止まりの動きで、雇用は厳しいながらも持ち直しの動きが見られる。個人消費は所得環境の厳しさを背景に弱い動きが続いている。

2. 個別の動向

(1) 生産 ～ 持ち直し ～

アジア需要や景気刺激策等により、主力の自動車・半導体関連等が牽引。海外向け設備投資関連の生産にも持ち直しの動き。なお自動車リコール問題では先行きに懸念の声も。

(2) 設備投資 ～ 下げ止まりの動き ～

製造業を中心に抑制傾向ながら、必要最小限に絞り込む動きは弱まり、一部では投資水準を上げる動き。環境・エコ関連では、積極投資も。

(3) 雇用情勢 ～ 厳しいながらも持ち直しの動き ～

製造業で依然過剰感が残るものの、自動車・半導体関連で求人増の動きがあり有効求人倍率は持ち直しの動き。雇用調整助成金対象者数も減少。

(4) 個人消費 ～ 弱い動き ～

所得環境が改善されない中で、消費者の低価格志向は変わらず価格下落が続いている。環境対応車や薄型TV等は堅調ながら、百貨店・スーパーやコンビニ販売、並びに旅行取扱高等で前年割れが続いている。

3. 地域経済のトピックス

- ・本格回復には悲観的な見方がある中、アジア市場に成長活路を求めようとする地場企業の動きが顕在化。中国で環境技術の展開やもの作り体制の強化等に取り組む企業がある。食関連でもアジア市場に浸透を試みる動き。
- ・雇用は、新卒採用は大幅抑制の一方で、中小企業では即戦力を求める声も。資金繰りの厳しさは政策効果もあって幾分和らぎつつある。
- ・観光・消費面では、2011年春の九州新幹線鹿児島ルートの新線開通や大河ドラマ「龍馬伝」等、新たな話題に期待する見方が広がっている。

